

第3回 安土小学校整備地選定委員会 補足資料

比較検討資料について

必要学級数の推計

比較資料では実学級（全学年 35 人学級）で算定している。

将来、30 人学級等、学級編成に変更があった場合、学級数が増加となり、設計の際に配慮が必要。

しかし、児童数の推計から将来的に児童数が減少することが予測されており、余裕教室で対応出来る可能性もある。

移転候補地のデメリットについて

浸水想定区域内に対する対策

琵琶湖が氾濫した場合の浸水深さ以上、かつ、圧密沈下が生じると考えにくいとされる 2 m 程度の盛土が適切と考える。

また、集中豪雨等、河川の流下能力を超過する可能性がある降雨量があった際、学校敷地内に一時的に雨水を溜める調整池を整備する。

大きさ等は、造成時の設計による。

軟弱地盤に対する対策

移転候補地は、地表から約 10m は粘土層であるため、地盤改良が必要。

杭の長さは建物の位置や構造等、様々な条件によることから、設計時にさらに詳細な調査を行い、構造計算等を行ったうえで検討。

浸水時の通学路対策

児童の保護者及び関係者と協議、必要に応じて所管警察署等関係機関と調整し、安全な通学路を指定。

安全上、道路の改良が必要と判断される場合、道路管理者に要望。